明治期浜松の内田医院庭園の築庭に関する研究

A Study on the Construction of the Uchida Clinic Gardens in Hamamatsu City During the Meiji Period

鈴木 里佳* 三浦 彩子**

Rika SUZUKI Ayako MIURA

Abstract : Teiji Uchida, a doctor in Hamamatsu City during the Meiji period wrote volumes of diary named “Meiji-nenchu-zatsuroku,” which includes concrete explanations and records about the construction of his own garden. The construction of the garden started in Meiji 20th and nearly completed in 24th. The majority of the garden plants were purchased in the neighborhood. Noticeably, the cherry trees were transplanted from the neighboring private garden. The record about the engaged people and pay proves the situation of the apprenticeship in gardening business at the time. The research on a gardener Niwahei that took a leading part in construction, his other garden projects, and the comparison between the other gardens of doctors' offices in the district clarified the cultural character of the gardens in Hamamatsu in the middle of the Meiji period.

Keywords: Japanese garden, Meiji period, Hamamatsu city, Gardener, Cherry tree

キーワード：和風庭園，明治時代，浜松市，庭師，桜樹

1. はじめに

近代和風庭園の研究は、これまでに政治家や実業家、画家、文人らの所有した京都や東京の邸宅、別荘庭園を中心に、その庭園観や築庭の工程について、一定の知見が蓄積されてきた¹⁾。一方、庭園の維持管理については、具体的な論証資料が不足しているため、庭園の普請に関与した庭師名や報酬、庭園材料の仕入過程、管理や利用形態の詳細について、とりわけ地方における個人庭園の築庭の実態や、庭師の活動に関しては未だ不明な点が多い。

本論文で対象とする内田家は、江戸時代から続く医家の家系として知られ、明治時代に静岡県浜松市新町に医院を開業している。内田家に関する史料は、当主である内田貞二²⁾が長年書き記した『明治年中雑録』が現存し、明治中頃に行った建物や庭園の普請が記録されている。とりわけ庭園関連の内容には、造園工事及び維持管理を含み、庭師の名前や報酬、植木などの仕入先を具体的に記録した総括的な作業の覚書であることから、内田医院庭園の築庭工程を把握するための重要な手がかりとなる。一方、絵図史料としては明治 25 年（1892）刊行の『静岡県明治銅版画風景集』

集³⁾に収録された「静岡県遠江国 敷知郡浜松町新 医師内田正」と題した銅版画がある。東海道側を正面とした細長い敷地内には、通り側に建設された診療所などの計 8 棟の建物の他、桜樹を多く配植させた庭園が鳥瞰図風に精密に描写されている（図－1）。

本論文では、『明治年中雑録』の翻刻文を銅版画の特徴と対照し、内田医院内に作られた「西庭」「園中」「隠居庭」の 3 つのエリアの築庭工程を分析する。これにより、地方の名士による作庭趣味及び、樹木に関する流通の実態、管理の頻度など、浜松地方における近代和風庭園の作庭内容の特徴を解明するものである。

2. 『明治年中雑録』について

『明治年中雑録』は、浜松市立中央図書館に所蔵され、冊数は、『明治年中雑録 壹』から『明治年中雑録 拾肆』までの 14 冊から成り、記載時期は明治 14 年 8 月 31 日から明治 32 年 2 月 26 日までの約 18 年間にわたる。寸法は縦 34.0×横 12.6 cm の和装本で、美濃判和紙を横に細長く二ツ折りにし、1 冊につき約 60 枚が綴じられている。保存状況は、一部、虫損の著しい箇所があるものの全体的に良好であるが、『明治年中雑録 拾参』を欠失している（図－2）。既往研究では、診客録や医師会の議事録など、主に医院業務に関する内容が紹介されている⁴⁾。

（1）内田医院の造園工事の過程

『明治年中雑録』の原文は、例として第 1 巻目の明治 15 年 5 月の項目に「庭作平兵衛 五月八日 壺工 三拾銭 飯酒 櫻起コシ細葉刈込等」と表記されるように、庭師や大工、左官職人などの職人名や、施工日時と内容、報酬金額の詳細が判明する。『明治年中雑録』に記載された庭園の普請について年表に整理したものが、〔表－1〕（内田医院造園工事年表（明治 14 年～明治 24 年））と〔表－2〕（内田医院造園工事年表（明治 25 年～明治 31 年））である。工事の項目を、「施工」「維持管理」「調達」と「庭師」の大項目で区別し、大項目をさらに作業種毎の小区分に分類

図－1 内田正邸（『静岡県明治銅版画風景集』より抜粋）

*名城大学大学院理工学研究科 **名城大学理工学部建築学科

図-2 『明治年中雑録』表紙(写真左より壹巻)

して、日付と作業の内容を原文から抜粋して年代順に表を作成し、工事の経緯を示した。屋敷地内には図-3に示したように「西庭」「園中」「隠居庭」の3箇所に庭園が存在したことが、銅版画からも確認されるが、原文から施工位置が明らかなものについては、表に記載した【月日】の冒頭に、それぞれ別の記号(○-西庭△-園中◎-隠居庭)を付記して、施工位置を区別している。

一方、建物の普請の流れを概観すると、明治15年から明治16年に行なわれた、建物全般に及ぶ軽微な修繕と、「診療所」の素建を主とした〔第1期工事〕。そして、明治22年から明治24年の、「園亭」や「隠居」の新築を行なった〔第2期工事〕では、建築工事に先駆けて、明治20年12月から「園亭」近くの「西庭」の造園が始まり、明治21年12月に築山の改修、明治22年3月頃からは「園中」付近の造園にも着手し、明治22年6月にかけて植栽を主とした庭園の骨格がほぼ完成した。さらに、それ以降に行なわれた「園亭」の増築や「土蔵」の修復、「上雪院」「聚遠楼」の屋根葺替といった〔第3期工事〕の、3期にわたって建築工事が行われている。

明治23年の3月頃から「隠居庭」の本格的な工事が始まり、明治24年6月頃までに銅版画に見られる庭園形態に至った。「隠居庭」は、外露地と内露地を造り、3基の石燈籠を置いた茶庭風の意匠が見られ、実際の利用形態については、『明治年中雑録』に「西庭」で春の花宴を催した様子や、後に家督を継ぐ内田正の浜松町長就任時期の、地元の名士を招いた秋の花宴などが記録されている。

築庭工程については、樹木の植付けや移植の時期は、主に2月から春先にかけて高木の桜樹や楓が植樹されており、山採りの時期は、松は3月下旬から4月、躑躅や苔、草物は3月から5月にかけてみられる。維持管理の実態については、1月下旬から2月上旬に肥料を入れ、4月から9月にかけて、松や柳、菊などの剪定と細葉⁵⁾の刈込みを行い、虫の駆除は7月下旬に集中して行なわれるなど、毎年定期的に庭園の管理が行われた過程が〔表-1、2〕より読み取れる。

(2) 植木の仕入と価格

銅版画にも多く描かれている桜樹や松などの、庭園の主景となる植木は、主に近隣の私邸庭園から購入されている。明治20年の大松の運搬は、13人を要する大掛かりなもので⁶⁾、価格は、同時に購入した松と合わせ2本で125銭であった。その他に小松や苔、躑躅などは、数人の庭師が近隣の山から採取して、庭に移植した経緯が記録されている⁷⁾。桜樹の購入に際しては詳しい記録が残っており、明治18年と、20年から23年の4年間、さらに明治26年にかけて、施主の貞二が庭師の番頭である平兵衛(庭平)を伴って踏査を行っていた様子が分かる⁸⁾。踏査記録には、「鴨江」「富塚」「元目」といった地名が、桜の呼称に使われる特徴があり、樹形は「元目ハ高二間以内一根二本立三尺許上ニテ四本トナリ廣ガル因テ樹形高カラズ」などと表記されている。これらの踏査により園内に植樹する桜樹が決定し、庭平とその妻が植木購入の仲介を行なっている⁹⁾。桜樹の購入に関して、例えば明治20年12月7日の原文に「元目櫻價七拾銭 幸内櫻價五拾銭

図-3 屋敷見取図

表-1 内田医院造園工事年表(明治14年~明治24年)

年代	明治14年		明治15年		明治16年		明治17年		明治18年		明治19年		明治20年		明治21年		明治22年		明治23年		明治24年		
	建物工事		診療所素建て・修繕										園亭・隠居・診療所素工.....竣工										
工 程 項 目	施工	植付	高木												○(12月)桜松	△(2月23日)桜 【3月8日~24日】松楓桜 【11月下旬】桜松	○△(3月4日)桜 【3月30日~4月5日】松を山採り	△(3月4日)松 △(3月11日16日)桜山椒 ◎(3月下旬~4月上旬)松 △(4月1日)桜	△(2月上旬)桜 ◎(2月8日9日)楓 ◎(3月下旬4月上旬)松 ◎(4月1日)松を山採り 【6月17日~19日】楓柳果 ◎(6月22日)梅柏 【4月15日】蘭橘				
			低木														【3月24日頃】萩 【5月20日21日】蘭橘 【6月20日21日】桔梗女郎花シダツレモウを山採り	【4月3日8日】蘭橘 【4月8日】杜鵑花 【4月4日~6日】苔					
			草物															【6月23日~25日】高麗芝 【3月26日30日31日】松	○△(4月上旬)松 【6月23日~7月上旬】柳松 【6月26日】山吹 【6月5日7日】萩 【3月31日】桔梗女郎花 【4月2日3日】スミタンポポ	○△(4月上旬)松 【6月23日~7月上旬】柳松 【6月26日】山吹 【6月5日7日】萩 【6月4日】女郎花カルカヤ ○(4月8日)高麗芝			
			地覆															【4月8日】杜鵑花 【4月4日~6日】苔					
			高木															【5月25日】楓 【3月26日】山吹 【6月23日~7月上旬】柳松 【6月26日】山吹 【6月5日7日】萩 【3月31日】桔梗女郎花 【4月2日3日】スミタンポポ	○△(4月上旬)松 【6月23日~7月上旬】柳松 【6月26日】山吹 【6月5日7日】萩 【6月4日】女郎花カルカヤ ○(4月8日)高麗芝	◎(2月3日)松 ◎(4月下旬)萩			
	移植	低木														【10月9日】柳 【10月18日】黄金樟葉	【3月29日】楓桜	○(3月26日30日31日)松	○△(4月上旬)松 【6月23日~7月上旬】柳松 【6月26日】山吹 【6月5日7日】萩 【3月31日】桔梗女郎花 【4月2日3日】スミタンポポ	○△(4月上旬)松 【6月23日~7月上旬】柳松 【6月26日】山吹 【6月5日7日】萩 【6月4日】女郎花カルカヤ ○(4月8日)高麗芝	◎(2月3日)松 ◎(4月下旬)萩		
	草物																【2月9日】細葉 【3月29日】山吹						
	地覆																						
	築山・庭石																						
	土工事																						
垣																							
維持 管理	剪定・刈込																						
	垣・樹修理	【9月26日】藤堀 【11月7日】疎垣	【3月29日~4月4日】 【5月8日】細葉刈込み																				
	虫駆除																						
	肥料																						
調 達	購入・採踏査																						
	材料購入	【12月6日】 煙神2玉	【6月29日】 桜一株売																				
庭 師	従事者名	植平・平兵衛	植平・庭作平兵衛(平兵衛) 庭平弟子・金八	庭平	庭平	植平																	

庭の凡例は○-西庭、△-園中、◎-隠居庭に従う。庭平については、上義を付記した。

先ヅ南屏九日頃」とあり、仕入先（元目町・幸内氏）、植物名（桜）、価格（七拾銭・五拾銭）、庭園の植樹位置（南塀）が記録されている。こうした桜樹の購入地は、内田家からおよそ半径2キロ圏内にある近隣の個人宅に集中する傾向がみられ、明治20年から明治24年までの期間に、計18本の桜が植樹されている。桜樹の価格については、最高で70銭と記録にあり、平均して価格は43銭程度である。

3. 内田家に関与した庭師

明治14年から明治31年までの期間に、『明治年中雑録』に記載された庭師の名前を、原文の表記に従って掲載したのが「表－1、2」下段「庭師」の項目である。明治14年9月26日の原文には「植平備金兩人来り柳傾ヲ正シ藤棚ヲ整へ諸樹ノ傾ヲ起コス」とあり、植平という人物が藤棚の整備を行い、明治15年6月29日の原文の「櫻壹株植平ノ媒ヲ以テ鋤琴ニ賣ル」から、桜樹の売買の仲介を行なった様子が分かり、これらの記録から、「植平」とは樹木関係の専門業者であると推測される。

「庭平」は、記録に見える庭師名では最も多く確認される¹⁰⁾。浜松地方における庭師の系譜については、これまでほとんど解明されておらず「庭平」の名も初出である。明治22年春の記録には「庭平及安廿貳年」といった見出しが付記され、以後数ヶ月間にわたり日付順に列記した形式で、庭平の造園工事が記録されている。例えば「六月廿三日平安二人来諸植換」のように、「平」や「安」など、庭師名を簡略して表記されており、とりわけ「平」の記載頻度が目だって高いことから、「平」が「庭平」と同一人物である可能性が高い。このように常に造園記録の筆頭に明記される庭平は、内田医院の造園工事の専属的庭師であったと推測される。庭平は、桜樹の踏査時にも施主と同行し、植木の売買の交渉に関わるなど、施主の身近にいて、施主の好みを熟知した庭師であった。

前述した「安」という人物については、明治21年11月28日の原文に、「助信村漆屋北隣浅紅櫻樹價五拾銭庭平ト名残老人ト往キ移来植著日尚高シ此日手分ニテ安ト名残二人ト富塚松ヲ移来植著」とある。庭平と安が、桜と松の植樹を分担した記録であるが、翌日の記録に「庭平庭安名残一人ニテ庭中櫻松数株ノ位置ヲ改ム」とあり、「安」と「庭安」が連日記録されていることから、「庭安」と「安」は同一人物の可能性が高い。明治24年の3月31日には初出である「小安」の名前が見られるが、それ以後に「安」の記述が

ないことから推測して、新たに「安」の弟子が加わったことで、「大安」と「小安」の2人を区別させた表記に変わったと考えられる。

明治24年6月14日の原文に「庭平大安小安来り松手入」とあるが、庭平・大安・小安の3人で従事していた記録は他にも多数ある。その他の庭師名は、「表－1、2」に示すように、安暨、千暨、新暨（林平）、小暨、清暨（清太郎）、暨弥（弥太郎）が確認された。また、名残と呼ばれる人物が多数従事していたが、名残とは、浜松城より北西にあった地名で、名残の出身人物には永太郎や梅吉、草吉が記録されている。

以上の記録から、庭平と協働する庭師に「庭安」「小安」が挙げられ、仕事の規模に応じて名残の人物や安暨などの協力を得て、造園工事が行われていた。報酬金額については、明治14年と15年の記録が残され、植平と庭平の一日あたりの工賃が、夕飯付きで30銭支払われている。弟子についても同じ金額の工賃が設定され、施主から庭平にまとめて支払われていた¹¹⁾。内田家に入りし大工の一日あたりの工賃が37銭5厘、左官職人が35銭であると比較すると、庭師の工賃は大工よりも低い。

『明治年中雑録』には、内田医院の庭園の他に、新町の別宅や、野口村の屋敷庭園と足立家屋敷庭園にも、庭平が関与した記録が見られる。足立家以外は全て内田家所有の屋敷であったが、別宅は医院近くの東海道沿いに位置し、明治18年3月28日から内田家の所有となり、規模は間口2間3尺、奥行15間5尺、総坪数40坪あまりの小敷地であった¹²⁾。この別宅には楓や芒、熊笹、松、桜苗を植え、明治27年には庭平が葡萄棚の改修を行なっている¹³⁾。野口村の屋敷は、内田貞二の父足立東郊の生家であり、その屋敷を貞二が継承した¹⁴⁾。野口村の屋敷庭園については、竹刈を行い、細葉苗などが植えられた¹⁵⁾。足立家屋敷庭園は、貞二の父足立東郊の孫の足立謙一郎の屋敷である。明治29年10月12日から14日まで、大安と小安と名残が作事に従事しているが¹⁶⁾、明治30年3月18日の大安に関する原文に「鳥居屋大株梅ノ半朽古木ヲ移スヲ嘱セラレ彼方ニ往ク此梅ハ六人擔ヒニテ小安梅吉外車夫儀助更ニ二人大安共六人ニテ擔ギ来ルト云フ」や、同年4月30日の庭平に関する原文「昼庭平チヨト顔ヲ出シ曰ク今日ハ白山下琴師ヨリ足立方へ楓樹ヲ移スト（阿夫佐曰ク楓ノミナラズト）」により、庭平や大安、小安、名残の梅吉により、足立家の新庭に植樹が行なわれた様子が分かる。

庭平は個人の邸宅以外にも、地元の茶産業の施設内の作庭も手

表－2 内田医院造園工事年表（明治25年～明治31年）

対象	年代		明治25年	明治26年	明治27年	明治28年	明治29年	明治30年	明治31年
	建物工事				園亭増築・土蔵修復		第2病舎新築		屋根葺替
工 程 項 目	植 付	高木	【3月21日】桜 【4月14日】柏 牡丹桜苗 【4月15日】楓 【3月22日】霧島園園		◎【4月1日2日】松 【4月23日24日】楓	【5月8日～12日】楓桜	【3月31日】桜 【4月2日～8日】桜		【3月6日27日】桜樹 【3月22日23日】梅葉樹 【3月25日26日】松を山送り
		低木 草物 地置				【4月24日25日】霧島園園	【4月28日29日】園園	【3月11日～14日】園園を山送り 【3月11日～14日】園を山送り 【3月11日～14日17日】苔を山送り	【3月17日】黄萩 【3月17日】松を山送り
		移植	【10月14日】老小柳を外へ出す		【1月31日～2月2日】桜 【4月18日19日】樹種不明		【3月4日】桜園園	【3月3日4日】桜松 【6月19日20日】樹種不明 【3月5日】霧島園園	【3月6日】桜 【9月24日】松 【11月15日16日】楓樹葉樹 【2月12日】山茶花 ◎【3月28日29日】
		低木 築山・庭石 燈籠設置 土工事 垣	◎【10月14日】 △【6月27日28日】櫻 【6月7日～9日】松剪定 【6月19日】芝刈 【9月2日～5日】松剪定 【9月6日】西編葉刈込		◎【4月3日4日】庭石 ◎【6月29日】2基設置 【4月20日25日】 【4月17日】中亭袖垣	【6月20日～24日】萩竹交換、剪定 ◎【9月26日】除草 【11月9日】萩刈	【5月1日～3日】苔 【7月8日9日】萩竹交換 【8月18日】萩竹 【8月28日～30日】松 【11月17日～21日】萩刈	◎【4月8日】障扉修繕	【2月21日】藤棚 【3月29日】藤棚 【2月9日～11日】
	保 持 管 理	剪定・刈込 技術・除草	【3月7日】梅接木 【5月26日】柳剪定 ◎【6月26日～28日】松剪定	【6月7日～9日】松剪定 【6月19日】芝刈 【9月2日～5日】松剪定 【9月6日】西編葉刈込	◎【4月7日】除草 【4月25日6月11日】除草	◎【9月26日】除草 【11月9日】萩刈	【5月1日～3日】苔 【7月8日9日】萩竹交換 【8月18日】萩竹 【8月28日～30日】松 【11月17日～21日】萩刈	◎【4月8日】障扉修繕	【2月21日】藤棚 【3月29日】藤棚 【2月9日～11日】
		垣・欄修理			◎【2月3日】藤棚 ◎【4月5日】垣	【7月3日4日】藤棚	【11月17日～21日】垣柱改造	◎【4月8日】障扉修繕	【2月21日】藤棚 【3月29日】藤棚 【2月9日～11日】
		詳細不明	【6月17日20日29日】 【9月5日10月前半】	【4月12日～14日】 【10月25日～27日】	【6月12日～17日】 【8月13日～27日】 【9月7日～15日】 【10月6日～8日】	◎【7月5日】 【7月】【8月上旬】 【9月3日～5日】 【9月28日29日】 【8月1日】	【3月29日30日】【5月26日～31日】 【6月24日25日】【10月11日】 【8月31日～9月15日】 ◎【11月23日24日】 【7月24日～27日】楓桜 【2月4日5日】	【1月26日～30日】 【2月28日～3月2日】 【3月15日16日】 【4月4日～7日】 【5月19日20日】 【7月7日～22日】 【7月23日～28日】	【2月21日】藤棚 【3月29日】藤棚 【2月9日～11日】
		虫駆除 肥料	【1月25日27日】		【1月31日】桜		【7月24日～27日】楓桜 【2月4日5日】	【7月23日～28日】	【2月3日8日】肥料
調 達	購入桜踏査		【3月】桜霧島園園 【4月14日】牡丹桜苗	【4月18日】 【6月20日】夏菊4株	◎【6月19日】燈籠 【9月12日】赤土3車	【3月31日】赤土10車 【4月10日】赤土1車 【6月2日】鰯魚池 【7月4日22日】竹6本、22本 【8月9日】赤土7車	【4月初旬】赤土2車 【9月14日頃】赤土1車	【3月11日～13日】赤土18車 【3月14日】細葉苗400本 【4月】赤土	【11月】竹材
	材料購入								
庭 師		従事者名	庭平(平)・大安・小安	庭平(平)・大安・小安(小)	庭平(平)・大安・小安・新暨・小暨・小暨(清太郎)・名残	庭平・大安・小安・名残・小暨・清暨	庭平・大安・小安・名残・名残(永太郎・名永)・名残(少年梅吉、名少・名残少年・梅吉)・草吉	庭平(平)・大安・小安・新暨(林平)・梅吉(名残新田の少年、梅)・藤太郎(藤)	庭平・大安・小安・中安・小暨・暨安・暨弥(弥太郎)・名残(永太郎)

庭の凡例は○＝西庭、△＝中庭、◎＝一庭居庭に從う。庭平については、下線を付記した。

がけている。『明治年中雜録』の第8巻目の明治24年9月1日の原文に「九月一日又三人来以上三個日ニテ松ヲ洗シ畢ル因テ二日ヨリ百里園ニ往ク」の記録がある。原文中の「又三人来」とは、数日前の「三十日庭平両安来」の記録から類推して、庭平と大安、小安の三人であるが、内田家の松の剪定を済ませ、翌2日より「百里園」に行った内容である。この「百里園」とは、現在の浜松市三方原にあった製茶工場で、明治維新後、駿府藩の藩士が三方原に入植し民間と共に茶園の開拓が進められ、明治19年5月27日に製茶場新築の落成式が行われ¹⁷⁾、その様子は銅版画で見る事ができる(図-4)。明治45年に焼失し現存しないが、当時の製茶工場の規模は、建物数20棟、建物延坪が1050坪であり¹⁸⁾、緑茶や紅茶、烏龍茶の製造所および、職人の寄宿所が建設された。ロの字型に建てられた製造所と、その内側には事務所や倉庫、桜樹を多く植えた中庭が見られる。さらに前面を通る金指街道は、低木の桜樹を配列した桜並木道で、敷地内から街道沿いまで、桜を主体とした景観が作られていた。

内田家近隣の、浜松市中区鍛冶町には、医師福島豊策¹⁹⁾の医院と付属の屋敷があり、その様子は銅版画から推察される(図-5)。福島豊策と内田貞二は、医会や浜松老年会で交友があり、2人が桜談を交わした記録が、『明治年中雜録』の第5巻目の明治21年4月の原文にも「福島氏櫻花談」と題し、「越永櫻数株ヲ平均一株廿五銭ニテ買フ皆尋常品ノ由四月八日植松村小太郎一株ヲ媒ス蓋シ楊貴妃ノ類也四月九日幸内中樹ヲ庭平媒ニテ壺円ニ買フ」と記録されている。植木の仕入には、庭平と小太郎が関与したが、「小太郎」とは[表-1]の明治21年にも登場した庭師であり、小太郎の仲介により、福島は品種楊貴妃の桜を購入し、庭平の仲介により桜を1円で購入している。銅版画には、出島に懸かる太鼓橋や、広大な池泉に船を浮かべて釣りをする人物が描かれている。

4. まとめ

以上の『明治年中雜録』の分析によって、明治中頃の内田医院庭園の築庭に関与した庭師とその作業の詳細及び、植木の仕入方

図-4 百里園製茶場(『静岡県明治銅版画風景集』より抜粋)

図-5 福島豊策邸(『静岡県明治銅版画風景集』より抜粋)

法など浜松地方における庭師の活動の一端が明らかになった。

植木職人の「植平」や、「庭平(庭作平兵衛)」をはじめとして、約16名の職人の出入りが記録されている。明治14年の記録には、植平と庭平の2人の名前があり、植平が植木の仲介を行なったが、後年になると明治21年の桜の踏査に庭平が赴き仲介にあたるなど、植平から庭平へと役割が継承されている。明治21年の記録には、植平と庭平と共に「庭安(大安)」が加わり、その後、庭平、庭安(大安)、小安の師弟の関係にあると思われる庭師が専属的に従事するなど、徒弟制度の中で技術が継承されていった様子を窺い知ることができた。庭師が従事した内容は、庭園の維持管理の他に、山野に自生する樹木を掘り取ってくる山採りから、園内への搬入、植付けといった一連の作業が含まれる。庭平は、内田家の所有する別宅や野口町の屋敷、足立謙一郎屋敷の作庭も行なったが、その他にも製茶工場の「百里園」にも関与がみられ、庭平は地元の名士や、企業からも造園を請け負うほどの庭師であったことが確認された。当地方の近代和風庭園については、ひきつづき調査を行ないたい。

補注及び引用文献

- 1) 特集(2008):ランドスケープ研究の動向:ランドスケープ研究72(1), 9-15
- 2) 土屋重朗(1973):静岡県の医史と医家伝:清水市戸田書店, 219-221によれば、内田貞二は、安政のコレラ流行期の感染予防書の『防疫貴目』や幕政の天保の改革に対する政治批判を述べた書物『破地土等集』の作者である。号を乾隈といい、漢学を学び江戸に出て塩谷岩陰にも学び、岩陰塾の塾頭となった。また、蘭学を修め、当時の眼科の大家土生の門に入り学び浜松に帰り開業した。
- 3) 若林淳之(1991):静岡県明治銅版画風景集:羽衣出版有限公司, 404によれば、全部で437図の銅版画が掲載されており、その内訳は明治25年刊行の『日本博覧図・静岡県・初篇』228図と、明治26年刊行の『日本博覧図・静岡県・後篇』200図(他に番外9図)の合計437図である。そのうち重複掲載された68図を除くと、全部で369種類の銅版画が収録されている。
- 4) 東海展望社(1985):東海展望6月号:東海展望社, 46-47によれば、近代医学の育成に大きな貢献をもたらしたとされる、ドイツ人の医学者ベルツ博士が浜松を訪れた際に、内田家で歓迎した様子が、『明治年中雜録』に記録されている。
- 5) 「細葉」の購入記録は、『明治年中雜録 拾貳』明治30年3月14日の原文「新原村江間平六ヨリ細葉苗来ル四百本價金貳円庭平方迄ノ運賃拾銭」とあり、浜北地方の新原村より苗を仕入れている。稲永幸男(1982):日本における緑化産業の地域的配置に関する研究:立正大学文学部緑化産業研究会, 92-93によれば、新原村では江戸時代中期より山林苗木と、一部の農家によりマツ、マキ、ヒバの生産が行われ、日高知宏(2001):遠州地方の宅地防風林(ほそば垣)を有する伝統的集落における微気候調査:日本建築学会東海支部研究報告集第39号, 501-504によれば、遠州地方には「ほそば垣(イヌマキ・マキ科)」を有する住宅が多く存在することから、「細葉」の樹種はマキ科のイヌマキであった可能性が指摘される。
- 6) 『明治年中雜録 肆』明治20年12月16日の原文「大松ヲ十三人持ニテ移シ場ニ据ヘ立テ置ク大松ト南屏松ト二本ニテ價金四円廿五銭」による。
- 7) 『明治年中雜録 陸』明治22年3月30日の原文「朝ヨリ庭平等二人政吉及名残一夫ト往キ赤松五株ヲ二車ニ載セ山ヨリ移シ来リシ時日没頃也一株ハ薄暮四株ハ夜ニ入り植ユ五株價四拾銭」のほか、類似する記述による。
- 8) 『明治年中雜録 伍』明治21年4月13日の原文「平兵衛小太郎安三人ノ庭工及ヒ武田生ヲ携ヘ池川ニ至リ池川氏櫻ヲ觀ル(後略)」による。
- 9) 『明治年中雜録 伍』明治21年4月15日の富塚太平所有山の桜の原文「此日平兵衛妻太平ニ至リ此樹ノ謀談ヲナス(以下略)」とある。また、小藪村字平道傍名花の原文「(前略)平兵衛曰く此樹下ハ我が識ル人也談ジシト」による。
- 10) 『明治年中雜録 壹』明治14年11月7日の原文「中坪疎籬十一月七日午後ヨリ平兵衛来リ(以下略)」とあり、明治15年5月8日の原文「庭作平兵衛五月八日壹工三拾銭ト飯酒櫻起コシ細葉刈込等」とある。明治16年の原文「庭平十月下旬三箇日来此時移種等ヲナス」と庭平名が見られる。
- 11) 『明治年中雜録 壹』明治15年4月4日頃の原文「此庭平下弟工賃ノ金貳円拾銭(中略)四月四日庭平エ渡タス」による。
- 12) 『明治年中雜録 参』明治19年1月の原文「地租改正下調張扣」に「持主木村質文 貞二曰ク明治十八年三月廿八日ヨリ持主内田正九番之内字北側」による。
- 13) 『明治年中雜録 陸』明治22年5月8日の原文「兩人来リ午前雜事午後雄松ヲ山ヨリ別宅ニ移ス」と、『明治年中雜録 拾』明治27年2月4日の原文「四日同二人別宅葡萄架ヲ改ム」などによる。
- 14) 前掲書2), 219
- 15) 『明治年中雜録 壹』明治14年11月7日の原文「(前略)午後ヨリ平兵衛来リ余ト共ニ野口ニ往キ竹ヲ伐ル(中略)庭中整頓」と、『明治年中雜録 漆』明治23年1月28日の原文「細葉苗廿三年一月廿八日市(中略)五十本八銭新原村商物右野口宅ニ植ヘシム(以下略)」による。
- 16) 『明治年中雜録 拾貳』の原文「廿九年十月十二日大小安二人(蓋シ此日ハ足立謙家ノ囑ト云)十三日小安(此日モ謙家囑)十月十四日小安名残」による。
- 17) 浜松市(2002):浜松市史新編史料編二:浜松市, 647-650
- 18) 財団法人農村開発企画委員会(2009):三方原用水地区歴史変遷資料作成業務報告書:財団法人農村開発企画委員会, 25
- 19) 大塚克美・神谷昌志(1983):はままつ百話-明治・大正・昭和:静岡新聞社, 96-97によれば、1838年佐賀の士族の生まれであるが、家が貧しく苦学して医と蘭学を学ぶ。明治12年に浜松病院院長となるが、明治20年に辞職し、浜松宿鍛冶町に医院を開業する。山葉寅楠のオルガンづくりを支援し、また、毎月自宅にて幻灯会を開き、衛生思想の啓発のため通俗衛生講話を催した。